

天平の森に設置されている  
400ミリニュートン式反射望遠鏡

# 私が紹介する 冬の楽しみ方。

冬にしかできないことや見られないものがあります。  
冬ならではの楽しみ方を聞きました。



信州野鳥の会会長  
丸山 隆さん

信州野鳥の会会長となり11年目。  
200人が加盟する会の活動はこれ  
まで700回以上にのぼる

## 安曇野の渡り鳥 民家でも見られる「ジョウビタキ」。

穂高在住で野鳥の生態に詳しい丸山隆さんは、信州野鳥の会の会長として、休日を中心に探鳥の活動をしています。安曇野で見られる冬の鳥について、話を聞きました。

「渡り鳥は大陸で繁殖し、秋から冬になり、餌が少なくなる」と、日本などに渡って過ごします」と渡り鳥の生態について話します。

安曇野の渡り鳥といえば、御宝田遊水地、犀川ダム湖、北穂高狐島（きつねじま）地区に飛来する白鳥が有名ですが、身近な場所で見られる渡り鳥もいます。

「私のおすすめはジョウビタキ」



15センチくらいの大きさで、オスは胸から腹にかけて鮮やかなオレンジ色をしている

キです。ジョウビタキは、畑地や住宅地でも見ることが出来ます。南天やツゲ、紫式部、ウメモドキ、カイヅカイブキなどが庭にあるお宅は特にやって来ます」と話します。ジョウビタキは雪の降った日は見つけるチャンスで、『ヒッ、ヒッ、ヒッ』という大きな声で鳴くので、比較的見つけやすいそうです。

この鳴き声が聞こえたら、北の大地からやってきた小さな旅人が近くにいるかも知れません。

星空といえば、秋の景色というイメージがありますが、星が最も鮮やかなのは冬天といわれます。明科の長峰山にある「天平の森」で星座の解説などを行っている職員・赤堀文彦に冬の星座の魅力を聞きました。

由は「冬は晴天の日が続く一等星が多い。また偏西風の影響で星が瞬きます。肉眼で見ると適した季節です」と話します。

まず、手始めに「オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオン」の『冬の大三角形』を探すといいと思います」とアドバイスを受けてきました。これらを探すと、他の星を探す目安にもな

## 安曇野から見る冬の星 おすすめは「カノープス」。



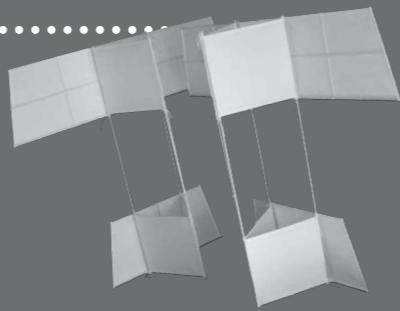
安曇野市「天平の森」職員  
赤堀 文彦

明科にある長峰山森林体験交流センター「天平の森」に平成7年の設立時から勤務。同施設を訪れる皆さんに星座の解説などを行っている

るとのこと。おすすめ冬の星について聞くと「一等星が多いなかで、安曇野から見える珍しい星は、南天の星『カノープス』です」と話します。

カノープスは、全天でシリウスに次いで二番目に明るく、南の地平線すれすれに見えます。日本では関東以南で見えるときられています。安曇野は南によく開けているため、場所によってかろうじて見ることが出来るそうです。

「この星は中国では『南極老人（なんきょくろうじん）星』と呼ばれ、見ると長生きできると言われています」。一年の終わり、始まりに縁起の良い星です。



二木さんが作った飛行機だこは100粒以上も揚がる

## 「たこ揚げ」で冬の風と遊ぼう。



三郷公民館長・たこ作り名人  
二木 重光さん

職業高校の教員だった昭和43年から、たこの「バランスとつりあい」に魅せられ、たこ作りを始める。現在、三郷公民館長

お正月にはたこ揚げです。冬は北風が安定して吹くため、たこ揚げに最適な季節です。

三郷在住の二木重光さんは、立体だこや連だこなど、多彩なたこ作りを得意とし、この季節は育成会などの講師として、まさに引っぱりだこ。

親子で作る機会も多かった作りですが、「作っているうちに子どもよりも大人が夢中になってしまうことも多い」と笑顔で話します。

「お子さんにとっても、ひものきちんとした結び方、のり付けの仕方など、手先を目いっぱい動かす良い機会になるのでは」と実際に制作した立体だこを手で説明します。

二木さんが作ったたこは、均整がとれ、見た目とても綺麗です。

たこ作りのコツについて聞くと「直角の部分をきちんと測ることが大切」だと話します。これは一般的なだこでも同じことが言えるそうです。

最後に二木さんの田んぼで、連だこを揚げさせてもらいました。冬空に昇っていくたこを見上げてみると、お正月が待ち遠しくなりました。